

きょうわ

協和小学校

学校通信

2012

1 / 17

No. 49

平成23年度 協和小学校教育目標

自立への芽をはぐくむ

マイコプラズマ肺炎にご注意！！

昨年より、全国的にマイコプラズマ肺炎の罹患者数が増加しており、本校「ほけんだより No.10 (11月11日)」でも症状等についてお知らせしておりますが、今回、厚生労働省がマイコプラズマ肺炎に関するQ&Aを作成しましたので、保護者の皆さんにお知らせいたします。

Q1 マイコプラズマ肺炎とはどのような病気ですか？ 今年どうして増えているのですか？

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。小児や若い人の肺炎の原因としては、比較的多いものの1つです。例年、患者として報告されるもののうち約80%は14歳以下ですが、成人の報告も見られます。

例年は、マイコプラズマ肺炎は1年を通じてみられ、冬にやや増加する傾向があります。過去には、昭和59年(1984)、昭和63年(1988)に比較的大きな流行があったほか、平成12年(2000)以降は徐々に患者数が増加傾向にあります。平成23(2011)年は夏ごろから患者数の増加が報告されていますが、増加の原因はよくわかっていません。

Q2 どのようにして感染するのですか？

患者の咳のしぶきを吸い込んだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3週間くらいとされています。

Q3 どのような症状がでますか？

発熱や全身倦怠感(だるさ)、頭痛、痰を伴わない咳などの症状がみられます。咳は少し遅れて始まることもあります。咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。多くの人はマイコプラズマに感染しても気管支炎ですみ、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となり、重症化することもあります。一般に、小児のほうが軽くすむと言われています。

Q4 感染しないようにするために、どのようなことに注意すればよいですか？

感染経路はかぜやインフルエンザと同じですので、普段から、手洗いをするのが大切です。また、患者の咳から感染しますので、咳の症状がある場合には、マスクを着用するなど咳エチケットを守ってください。

Q5 治療方法はありますか？

抗菌薬(抗生物質)によって治療します。重症化した場合には、入院して専門的な治療が行われます。長引く咳などの症状があるときは、医療機関で診察を受けるようにしましょう。

風邪やインフルエンザ、さらに感染性胃腸炎の感染防止のため、本校では「うがい・手洗い運動」に取り組んでいますが、ご家庭でも健康管理に十分ご留意くださるようお願いいたします。

また、万が一インフルエンザ等に感染・発症し、医師の診断があった場合は、学校にご一報くださいますようお願いいたします。